



”ジャポニスム。鎖国が生んだ芸術。
それは誇るべき情念 [Affect] である”

大航海時代、江戸時代の鎖国政策下の島国日本が想わぬ素晴らしい芸術性を生んだ。美術における蒔絵、屏風絵、浮世絵や能楽からの情念 [Affect] でありインスピレーションである。もうそれは優劣を採る一方的な文化比較ではない。演奏家として次のステージに遊ぶことが求められる誇るべき幸福な今なのだ。

例えば、特にフランスにおける 19 世紀フルートは 2 つのスタイル、すなわち円錐管と円筒管フルート、この場合円錐管フルートとジャポニスムとの結びつき、必然性、旋法音楽復興での発見と驚きである。

今回は 18 世紀フランスバロック音楽に漂うジャポニスムが香る装飾。感情移入が神秘に満ちた響きとなった 19 世紀フランス音楽。印象、情念を求めた旅にしたい。

2022 年秋 勝俣敬二

勝俣 敬二 フルート

米沢市に生まれる。日本大学芸術学部を卒業。1979 年
スイス政府推薦留学生としてバーゼル市立音楽大学に留学。

スコラ・カントルムにて古楽フルート、グレゴリオ聖歌を

学ぶ。スイスの芸術家資格ディプロムを取得。以来、国内とヨーロッパにて演奏活動中。クレモナ・サン・ミケーレアンサンブルを結成し、「天正少年遣欧使節と音楽」を研究。他に「慶長遣欧使節と音楽」、「米沢のキリシタン殉教と音楽」、「19 世紀ジャポニスムとフランス音楽」、「グレゴリオ聖歌から学ぶ旋法と調性」の研究で知られる。母校日大芸術学部講師として「調性と演奏論」を講義。30 余年に亘り「東京バッハ・カンタータアンサンブル」のメンバー。「聖アンセルモ・グレゴリオ聖歌隊」、「グレゴリオ聖歌隊米沢」の指揮者。フルート・セミナリオ、米沢フルート音楽研究会を主宰し後進の指導にあたり、米沢市芸術文化協会特別賞を受賞。(一社) 支倉常長日西文化協会正会員。主な CD に、『天正遣欧少年使節と 400 年前の音楽』、『F.&K. ドップラー・フルート音楽選』、『雅宴画と音楽 J.B.de ボワモルティエ 6 つの組曲 Op.35』、『G.フォーレと C.フランクの芸術』がある。



永田 斉子 アーチリュート

長崎県生まれ、東京都在住。国際基督教大学教養学部人文科学科 (音楽学専攻) 卒業。聖グレゴリオの家古楽科でリュートを始め、フランスのストラスブール国立音楽院リュート科を演奏家ディプロマを得て修了。社会起業大学修了。リュートおよび通奏低音奏法を今村泰典、ブライアン・フィーハン、左近径介、音楽学を金澤正剛、アレクサンダーテクニックを桜井真理子の各氏に師事。ルネサンス～バロック時代の数種のリュート、ギターを時代と様式に応じて使い分けながら、ソリスト、通奏低音奏者として演奏活動を行っている。



押切 圭子 朗読

これまで勝俣敬二氏の数多くの音楽シーンに朗読で出演。同時にグレゴリオ聖歌を師事。現在、山形新聞の朗読コラム「ささやき談話室」を担当。

米沢フルート音楽研究会

1982 年、スイス留学から帰国した米沢市出身のフルート奏者 勝俣敬二氏が開いたフルート教室を母体として創立した。以来 40 年に亘り後進の指導とアットホームで創造性豊かな活動を続けてきた。当初から深い知識 (古楽) や歌うことの素晴らしさ (グレゴリオ聖歌) など西洋音楽の源泉を見つめて独自の音楽観を育ててきた。活動内容は、入門者から専門の方まで月 1~3 回の個人レッスン、合奏、講座、季節の合宿、定期演奏会、海の日コンサート、地域ボランティアや海外音楽研修旅行 (これまで 1993 年米国、1995 年スイス、1997 年ポルトガルとスペイン、2000 年ポーランドとドイツ、2004 年オーストリーとチェコ、2007 年スイス、2010 年スイスとフランス、2013 年イタリア、2016 年スイスとドイツ) を行った。スイス・レンク村での古楽講座は 4 回を数える。これまで、山形県県民芸術祭優秀賞 2 回、同奨励賞、米沢市市民芸術祭優秀賞、同奨励賞、山形県社会音楽祭完戸杯 2 回、同奨励賞等を受賞。



生徒募集のお知らせ

米沢フルート音楽研究会のフルート教室と講座～入門者から専門家まで～

主宰講師 勝俣敬二 阿部志穂 (吹奏楽他) 客員講師 陸井鉄男

フルート教室直通 Tel 0120-032574 Tel 090-8584-0400

E-mail flauto_seminario@yahoo.co.jp

風のセミナリオ https://blog.goo.ne.jp/f_seminario

会員募集！グレゴリオ聖歌が米沢で学び、歌えます！